

日本語の漢字に熟字訓の分析

(意味論の研究)



トミ コサシ

0942011

マラナタキリスト大学

文学部. 日本文学科

バンドン

2013

1. 序論

日本の文字にはひらがなとカタカナと漢字が三つあり、漢字は中国から伝来された。漢字の中には音読みと訓読みがあり、音読みとは、日本語における漢字の字音による読み方である。また、訓読みとは、日本語において、漢字を字音ではなく、同じまたは似た意味のすでにある日本語の固有語で固定的に読む読み方である。漢字は同音異字が多く、区別することが困難である。そこで漢字を二字以上集めて一つの意味を表すことが古くから行われており、これを熟語と言う。

さらに、日本語には特別な熟語があり。この熟語は、この熟語の漢字の音読みと訓読みで読まない。例えば、‘五月雨「さみだれ」’、または‘相撲「すもう」’などがある。‘五月雨’と‘相撲’は各々の漢字の音読みと訓読みで読まないが、特別の読み方がもうあり、こうした特別な読み方を熟字訓と呼ぶ。佐竹邦子は“熟字訓は漢字二字以上が表す意味を利用してできた”（佐竹、2005:67）と説明している。

この研究の目的は：

- 1) 熟字訓の読み方の生成を説明する。
- 2) 生成された漢字の熟字訓の意味関係を説明する。

2. 本論

ここでは集めたデータを分析し、常用漢字にある熟字訓を使い、熟字訓の生成を説明する。

1) 七夕（たなばた）

七	<i>kun'yomi</i>	<i>on'yomi</i>
tujuh	<i>Nana-tsu</i>	<i>shichi</i>

(Kano, 1990:22)

夕	<i>Kun'yomi</i>	<i>On'yomi</i>
Malam, senja	<i>Yuu</i>	<i>Seki</i>

(Kano, 1990:89)

七夕（たなばた）は‘七’と‘夕’で生成された熟字訓である。

七夕の漢字は音読みまたは訓読みで読まない。七夕は今では牽牛星と織女星の再会の日として知られているが、もとは神を迎える行事だった。七月七日の夜、水上に棚をつくり、聖なる乙女が機織りをして神を迎えた。この乙女は、棚機女とか乙棚機と呼ばれ、行事は（棚機）と呼ばれた。それが七月七日の行事だったところから、（たなばた）に、（七夕）の文字があてられるようになったのである。

2) 明日 (あした/あす)

明	<i>Kun'yomi</i>	<i>On'yomi</i>
Terang	<i>Aka-rui, a-keru</i>	<i>Mei, myou</i>

(Kano, 1990:41)

日	<i>Kun'yomi</i>	<i>On'yomi</i>
Hari, matahari	<i>Hi, bi</i>	<i>Nichi, jitsu, ni</i>

(Kano, 1990:4)

明日 (あした/あす) は '明' と '日' で生成された熟字訓である。鎌倉末期頃から「何かあった日の翌朝」の意味でも用いられ、平安末期以降、現在と同じ「明日」の意味をもつようになった。明日は「夜が明ける」などの「明け (あけ) に、奈良時代の東国方言で「時」を意味する「した」で、「あけした (明時)」が転じたと考えられる。明日 (あす) はあかす「明かす」の略、また「あさ(朝)」の転と考えられる。

明日はみょうにちでも読めるが、みょうにちは熟字訓ではないまた。みょうにちとあすとあしたは意味が違う。“(あした)は日常普通に使われる語だが、(あす)はやや改まった語であり、(みょうにち)はさらに改まった語である。

3) 浴衣 (ゆかた)

浴	<i>Kun'yomi</i>	<i>On'yomi</i>
Mandi	<i>A-biru, a-biseru</i>	<i>Yoku</i>

(Kumon, 1993:424)

衣	<i>Kun'yomi</i>	<i>On'yomi</i>
Kain, pakaian	<i>Koromo</i>	<i>I</i>

(Kumon, 1993:331)

浴衣 (ゆかた) は '浴' と '衣' で生成された熟字訓である。浴衣は「湯帷子 (ゆかたびら)」の略である。「湯帷子」は入浴時や入浴後に着る「帷子」のことで、「帷子」とは夏用の単衣の着物を意味し「かたびら (片枚)」とも書かれる。江戸時代以降、入浴に関係なく夏に着る単衣を「ゆかた (浴衣)」と言うようになった。

3. 結論

1) 熟字訓はかなり古くからある日本語の言葉である。熟字訓の生成は略または古語から転じた語である。ほかの読み方で読める熟字訓もあるが、ほかの読み方で読めば意味が異なる。

2) 熟字訓の漢字と熟字訓の意味と意味関係がある。例えば、‘竹刀（しない）’、‘竹刀（しない）’は‘竹（たけ）’と‘刀（かたな）’から生成されている。竹刀は竹から造られた剣で、剣道で使用されている。であるから、‘竹刀’と竹刀の意味を見ると意味関係がある。

DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN	i
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	ii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iii
KATA PENGANTAR	iv
DAFTAR ISI	vi
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah	5
1.3 Tujuan Penelitian	5
1.4 Metode dan Teknik Penelitian	6
1.5 Organisasi Penulisan	7
BAB II KAJIAN TEORI	8
2.1 Sejarah <i>Kanji</i>	8
2.1.1 Masuknya <i>Kanji</i>	8
2.1.2 Cara Baca	11
2.1.2.1 Ucapan Cina (<i>on'yomi</i>)	11
2.1.2.2 Ucapan Jepang (<i>kun'yomi</i>).....	15
2.1.2.3 Penggunaan <i>On'yomi</i> dan <i>Kun'yomi</i>	16
2.1.3 Karakter Asli Jepang	17
2.2 <i>Jukujikun</i> 熟字訓	18
2.3 Tinjauan Umum Semantik	23
2.3.1 Definisi Semantik.....	23
2.3.2 Semantik Menurut Para Ahli dari Jepang	24

2.3.3 Relasi Makna.....	25
BAB III ANALISIS MAKNA KANJI-KANJI JUKUJIKUN (熟字訓) DAN PEMBENTUKANNYA	27
BAB IV SIMPULAN.....	59
DAFTAR PUSTAKA	61
LAMPIRAN.....	viii
SINOPSIS	x
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xvi